

氏 名	宮 本 一 みやもと はじめ
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 記 番 号	論 医 博 第 455 号
学位授与の日付	昭 和 43 年 11 月 25 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 5 条 第 2 項 該 当
学 位 論 文 題 目	晩期妊娠中毒症妊婦の分娩時における脂質代謝に関する 実験的研究
論文調査委員	(主 査) 教 授 西 村 敏 雄 教 授 早 石 修 教 授 沼 正 作

論 文 内 容 の 要 旨

著者は晩期妊娠中毒症患者の分娩時において脂質がいかに利用されるかを脂酸の運搬型非エステル型脂酸 (NEFA) と、中間代謝物質ケトン体 α -ケトグルタル酸 (α -KGA) などの分娩直後における動態から追求し以下の成績を得た。

- 1) 正常妊婦に比べ中毒症妊婦では母体静脈血中において NEFA, ケトン体はいずれも増加し, α -KGA は逆に減少している。
- 2) 胎盤絨毛組織では正常妊婦に比し中毒症妊婦の場合で NEFA, α -KGA は減少し, ケトン体は増加している。
- 3) 臍帯静脈血では正常妊婦に比し中毒症妊婦の場合ではケトン体が増加し, α -KGA は減少し, NEFA については著差がなかった。
- 4) 脂質を負荷した際, 母体静脈血では NEFA, ケトン体において負荷による増加度が中毒症妊婦で高く, α -KGA では逆に低い。しかるに絨毛組織では負荷による増加度がNEFA, α -KGA 共に正常妊婦の場合において高く, ケトン体では中毒症妊婦の場合において高い。臍帯静脈血で負荷による相違は何れにおいても認められない。

従って中毒症時の胎児は正常妊婦時の胎児に比し分娩時においてもケトン体に富む環境にあることが明かになったのである。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

晩期妊娠中毒症 (軽症) 患者につき分娩前静脈血中NEFA, ケトン体, α -KGA, 分娩後においても同様に測定し, この際ではさらに臍静脈血, 胎盤絨毛組織についても同様に測定し, 以下の結果を得ている。すなわち中毒症妊婦では正常妊婦にくらべ母体静脈血では NEFA, ケトン体は増加, α -KGA は減少, 胎盤絨毛組織では NEFA, α -KGA は減少, ケトン体は増加, 臍静脈血では NEFA に著差がなか

ったがケトン体は増加、 α -KGA は減少していた。脂質を負荷するとなるほど母体静脈血では中毒症妊婦においてNEFA、ケトン体はよけいに増加し、 α -KGAの増加は少なかったが、絨毛組織ではケトン体のみの増加度が著明であり、NEFA、 α -KGA の増加度はいずれも少ない。しかし臍静脈血では負荷による変動は著明ではなかった。以上の所見は要するに分娩時においても妊娠中毒症胎児はケトン体に富む血液に栄養されていることを示唆していると思われる。

本論文は学術上有益であって医学博士の学位論文として価値あるものと認定する。